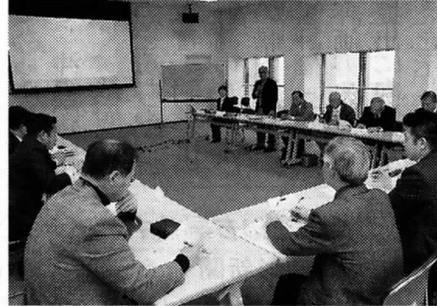


2011年12月10日(土) 山形新聞に掲載！！

「回天の道」と六十里越街道テーマ

山形 広域観光 可能性探る



庄内町出身の幕末の志士清河八郎が向学心に燃え江戸を目指した「回天の道」と六十里越街道を題材に広域観光の可能性を探る懇談会が9日、山形市の霞城セントラルで開かれた。写真。清河八郎は満16歳の時に学者になろうと家出して江戸に上り、剣と学問の修業に励んだ。東京のNPO法人「三元氣・まちネット」(矢口正武代表理事)が戸沢村出身の八郎が出奔した県内ルートを2回に分けて踏査。本紙が同行取材し、詳しく紹介した。

庄内町では八郎が通った山伏峠の山道を町民が復元整備し、ツアーなどが行われている。同じく八郎の出奔ルートである六十里越街道などを含め、広域連携による観光振興を語り合おうと懇談会を開いた。

庄内、鶴岡、西川、寒河江、山形、上山、村山の各市町や地域づくり団体の関係者など約20人が参加。矢口さんが「広域連携が必要だと分かっているけど、なかなか進まない。NPOに旗振り役ができないか」と口火を切った。

出席者からは「村山地方7市7町の広域観光圏で旅行商品の開発などに取り組んでおり、庄内地方を含めた展開も考えたい」「テーマ性のある旅は今後、注目を集めるのではないかな。連携の動きを旅行商品に結び付けることが課題となる」「行政主導だと長く続けるのは難しい。最新の情勢が分かり、ガイドや送迎などを市町村を超えて調整する民間の力が必要だ」などの意見が出た。